

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立加茂小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	担任 研修班 学力向上担当	① 校内研修(研究授業)による授業改善 ② 家庭学習の充実のための方策(呼びかけと改善)	12月末	① 研究テーマ「めあてに向かい深めていく授業づくり」をもとに、授業研究をする。学力テストの結果などをもとに、授業改善の研修をする。 ② 4月に家庭学習の手引きを配付し、保護者に最初の学級懇談で説明する。4年生以上は、自主学習を毎日する習慣をつける。自学ノートを一人1冊持つ。自主学習に使えるプリントも用意する。(東書プリントの有効活用)模範となる自学ノートを掲示し、高揚を図る。	・苦手なところを家庭学習で復習する。得意なところを自主学習で発展的に取り組むなど、授業で学習したことと自主学習がつながる児童がほとんど100%になる。 ・高学年は、家庭学習1時間以上の児童が70%以上になる。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	PTA(保護者・学校) 研修班 学力向上担当 生徒指導班	・メディアコントロール週間の取り組み	12月末	・一週間、メディアに触れる時間の目標を決め、毎日達成できたかカードに記録する。 ・家庭学習時間もカードに記録し(学年×10+10)分の時間を目標として取り組む。 ・中学校のテスト期間に合わせ、保小中で連携して、年間5回行う。 ・カードは1年間使用し、取り組みの記録を見直せるようにする。	・高学年は、家庭学習1時間以上の児童が70%以上になる。 ・スマホ・ゲームの使用時間が2時間以内の児童が70%以上になる。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】 県【3年～5年】 ●どの学年のどの教科においても、平均正答率が全国平均を下回っている。 ●基礎・応用にかかわらず、またどの領域においても全国平均を下回っている。 ●4年生の算数については、昨年度より標準スコアが上がった。</p> <p>全国【6年】 ●国語、算数とも平均正答率が全国平均を下回っている。 ●国語の「読むこと」の領域については、全国平均を上回っている。 ●国語のその他の領域や、算数のすべての領域が全国平均を下回っている。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ●家庭での学習時間(1時間以上)の割合が63.8%であり、全国平均(66.8%)に比べてやや低い。 ○学校図書館・学校図書室や地域の図書館に、月に1～3回以上行く児童が、全国に比べて30%近く高い。 また「読書が好きだ」という項目に肯定的な児童生徒が、全国と比べ10%以上高い数値となっている。 ○「学校に行くのは楽しい」という項目に肯定的な児童が、全国や県よりもやや高い。 ●「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒は78.2%で、全国平均81.2%に比べやや低い数値となっている。 ●平日にゲームを2時間以上する児童の割合は、全国平均と比較して20%近く高い数値となっている。 ●平日にテレビやDVDなどを4時間以上見る児童の割合は、全国平均より25%以上高い。</p>
---	--

成果

○「読書が好き」「図書室・図書館へ行く」という質問の回答が全国や県より高いことから、読書カードや読書週間の取り組みが成果を上げている。
○地域ボランティアを活用しての授業や地域を題材にしている授業が多くある。そのため児童が地域の文化や行事に関心を持つことにつながっている。
○国語の文章で書く問題に対して、「最後まで解答を書こうと努力した」と解答した児童が県や全国に比べて多く、昨年度から取り組んでいる「授業の中で書く時間を確保し、自分の言葉で書く習慣を身につけるようにする」ことの成果と思われる。

課題

●国語・算数ともに、前学年までの学習の定着が十分にできていない。前学年までの復習をして、もう一度学習の積み上げをしていく必要がある。
●メディアやゲームの時間が多い傾向にあるので、これまでも取り組んでいた「メディアコントロール週間」をさらに充実させ、保護者にも呼びかけていく必要がある。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
話す・聞く・書く活動を工夫して、学習内容の理解を深める授業づくり	3月まで	全学年 授業がよく理解できているという児童が90%以上になるようにする。 秋チェックの正答率を平均に近づける。	校内研究テーマに沿って、授業研究を行う。「話し方・聞き方名人」を活用し、考えを表現し合える授業づくりをする。校外研修で学んだことを校内で紹介し、職員研修を深める。					
前学年までの復習	3月まで	全学年 県学テの基礎問題の平均正答率を県平均に近づける。	2学期より、月曜日の掃除の時間を「加茂小タイム」とし、15分間、前学年の復習をする時間を設定する。学力の課題を教科・学年ごとにまとめた一覧表「加茂小パワーシート」に挙げた内容を中心に、前学年で取り組む。「加茂小タイム」で取り組んだ内容を記録し、積み残しがないようにする。					
家庭学習の定着と充実	3月まで	全学年 家庭学習の提出率を95%以上にする。	週末の家庭学習に、前学年までの内容のものを必ず出す。「加茂小パワーシート」を活用しながら、家庭学習の出し方を工夫する。その内容について記録をしていき、徹底する。					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○8月に小中合同の研修を行い、各校の学力について現状を報告し合い、課題を共通理解した。
○家庭学習の取り組み方や提出の仕方、学校生活のちがいについて協議し、小中の接続を研究する。
○小中で中学校の定期テストに合わせた、メディアコントロール週間に年に5回取り組む。

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭でのテレビやゲーム、スマートフォンの時間を少なくするために、保小中と家庭と連携した取り組みとして、「メディアコントロール週間」をPTAの重点施策として取り組む。今年度から様式を新しくし、わかりやすく親しみやすいカードにした。
○「メディアコントロールカード」に家庭学習の時間を記録する欄を設けて、家庭学習の取り組みを児童や保護者にわかるように「見える化」し、保護者へ呼びかける。
○昨年度に続いて、読書の習慣を身につけるため読書カードを作成し、取り組みの様子を保護者へ伝えて協力を求める。